

日本大学工学部校友会

校友会報

第85号

令和4年3月1日



INDEX

- ごあいさつ 2
- 令和3年度通常総会について 3
- 大野均選手メモリアルコーナー開設 3
- 支部活動報告 4
- あかしや建友会 7
- 日本大学工学部が推進する産学官連携活動(5) 8
- 求人情報提供ください・校友会より 10
- ポストコロナ社会のリモート技術 11

- 校友レポート 12
- 令和4年度通常総会通知 16
- 第39回母校を訪ねる会 16



表紙のQRコードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページ(校友会について・ニュース・校友会便り・校友会報等)をご覧ください。

ごあいさつ



工学部長 根本 修克

令和4年の早春を迎え、校友の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今般、本学元理事が、東京地方検察庁に背任容疑で逮捕・起訴され、さらに、本学前理事長までもが所得税法違反容疑で逮捕されるという一連の不祥事により、本学は社会における信頼を大きく損なうことになり、校友の皆様にも多大なるご心配および御迷惑をおかけいたしておりますことに衷心よりお詫び申し上げます。本件は、教育機関である大学におきましては、断じて許されない不祥事であり、その社会的・道義的責任も重大であることを認識し、日本大学内におきましても改善施策を断行し、信頼の回復に教職員が一丸となって全力を尽くす所存でございます。工学部におきましては、従来から、教職員が一丸となり、一人一人の学生に真摯に向き合いながら、学生の教育・研究および生活のサポートにあたって参りました。校友の皆様からの信頼回復への道のりは容易ではないと認識しておりますが、従来通りあるいはこれまで以上に学生の教育や生活サポートにひたむきに当たる以外にその道はないと考えております。校友の皆

様には、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げる次第でございます。

さて、工学部では、20年以上にわたり、「ロハス工学」を基盤とする研究活動を行って参りました。令和元年の東日本台風による大規模水害により、ロハス工学研究の象徴的な存在であったロハスの家群は解体せざるを得ない状況となりましたが、令和2年に立ち上げた「ロハス工学センター」内に新たに「ロハスの家群跡地再生プロジェクト」を立ち上げ、「ロハス工学」を体感できる新しい研究施設を構築するために、教職員のみならず学生も参加した上で、ワークショップにおいて議論を重ね、ランドデザインが構築されております。今後も、工学部の研究基盤となる「ロハス工学」に関わる研究成果を広く社会に発信して参ります。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いておりますが、十分な感染症拡大防止対策を講じながら、令和4年度には面接授業を中心とした授業展開を行う方向で検討を進めております。さまざまな苦難の中、工学部がここまでに至りましたのも、日本大学本部校友会ならびに工学部校友会および他学部校友会、校友会各支部を通しての校友の皆様からの多大なるご支援の賜と衷心より感謝申し上げます。

結びに、校友の皆様のご健勝とご活躍ならびに工学部校友会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。



校友会会長 中野 伍朗

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は校友会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

一昨年からの新型コロナウイルスによる影響で、母校キャンパスも大変な状況が続いております。授業は対面に戻りつつあり、学園祭は3年振りに規模を縮小して開催されましたが、例年校友会参加事業として行って参りました母校を訪ねる会、キャンパスツアー、校友茶会などの開催は残念ながら3年続けて見送りとなりました。本年は母校を訪ねる会など校友会参加事業を是非開催したいと考えております。開催方法につきましては状況を鑑みながら慎重に検討して参りたいと思っております。

昨年4月17日に工学部校友会総会が開催されました。役員改選が行われ新体制でスタートいたしました。直近では大学において一連の不祥事により、大変残念な問題が発生し、校友の皆様には多大なるご心配をおかけいたしました。工学部校友会といたしましては、今後とも学生ファーストで、学部と連携して新型コロナウイルス感染症防止対策関連の支援等、特に困窮学生への支援に注力して取り組んで参りたいと考えております。

また、校友会準会員会費還付金の分配割合引き下げ3ヶ年計画を受け、工学部校友会の門構えの見直し・整備を実施し、運営コストの削減に取り組む所存です。

平素は、工学部教職員の皆様からのご支援、ご協力に感謝申し上げます。これからも工学部ならびに工学部校友会が連携して車の両輪となり、母校の発展に寄与できれば幸いです。

最後になりますが、校友の皆様におかれましては、今後とも工学部校友会に対してなお一層の変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝、ご活躍を祈念して挨拶とさせていただきます。

令和3年度第63回通常総会

令和3年4月17日(土)、工学部62号館3階大講堂において2年ぶりに通常総会が開催されました。新型コロナウイルス禍の最中であり、消毒、飛沫の飛散防止等の感染対策を講じた上での開催となりました。

議事に先立ち議長に永田正一郎氏(土21)、議事録署名人に小野信太郎氏(土29)、山本健史氏(建37)、書記に柳沼由美子氏(化30)、佐久間啓氏(機40)をそれぞれ選出しました。

議事では一昨年の開催を見送ったため、令和元年度、令和2年度の2年分の会務報告、一般・特別会計決算報告、会計監査報告が行われ、それぞれ承認されました。その後、令和3年度の事業計画、一般・特別会計決算報告が提案され、それらもそれぞれ承認されました。



また、本来であれば令和2年度通常総会で行うはずであった役員改選も実施され、新会長に中野伍朗氏(化16)、新幹事長に土方吉雄氏(建23)が承認されました。新型コロナウイルス禍の影響で、前年度1年間で暫定役員であったため、今回に限り、本来の役員任期3年から暫定役員期間の1年分を差し引いた残存期間2年が役員の任期となります。そのため次回の役員改選は令和5年度通常総会に行われます。

併せて会則改正も提案され承認されました。承認後に新会則を適用する形で新会計監査に小松和幸氏(建25)、小田真司氏(土34)、宗形彰久氏(土36)が選出されました。

総会后恒例の懇親会は新型コロナウイルスの感染防止を考慮して中止としました。



郡山市が「大野均選手メモリアルコーナー」を開設 ~宝来屋郡山総合体育館~



大野均さん 略歴

郡山市三穂田町出身。中学校・高校時代は野球部だったが、熱心な勧誘を受け、大学からラグビーを始める。恵まれた体格と身体能力の高さを買われ、東芝に入社し、国内外で活躍。トップリーグ出場数170試合(歴代2位)、日本代表キャップ数98(歴代1位)などの記録を持つ。ラグビーワールドカップにも3大会連続で出場し、「ブライトンの奇跡」と呼ばれる当時世界ランキング2位の南アフリカ代表撃破に貢献した。2020年5月現役を引退。

1月10日、郡山市豊田町にある宝来屋郡山総合体育館1階ロビーにおいて、ラグビー選手として世界的に活躍され*郡山市フロンティア大使でもある大野均さん(機械49回)が2020年に現役引退されたことに伴い、同体育館にメモリアルコーナーが設置され、大野均さん、品川萬里郡山市長、大野均後援会会長でもある塩田義智郡山市議会議員、高田善一大野均後援会副会長、大野選手のご両親、大学時代の恩師である金田建夫元日本大学工学部ラグビー部監督を含む多くの参加者のもと除幕式が開催されました。また、除幕式終了後には、隣接する郡山ヒロセ開成山陸上競技場において、郡山市ラグビーフットボール協会選抜選手(小、中学生等)60名を対象に、大野さんを講師としてトップアスリート養成教室(ラグビー競技の実技指導)も開催されました。校友の皆さんにも同体育館にご来場の際は、是非ご覧いただきたいと思ひます。(資料提供・撮影協力:郡山市)

*郡山市フロンティア大使

それぞれのお立場で「郡山」を後押ししてくださっている、国内外で活躍されている郡山市ゆかりの応援団。

北海道支部

北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9
 (株)横関工業内 ☎011-831-6851



支部長
横関 一伸
 (建築 25 回卒)

● コロナ禍でやったこと

札幌が特にコロナ感染が多く、札幌以外の地方に出張も出来ず、活動が思うようにいきませんでした。

● コロナ収束後(次年度)への抱負

コロナ収束後は、校友の皆様の安否確認の為、全員にご案内して、校友会北海道支部総会を行いたい。



● 地域でのトピック

2021年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群(17遺跡)」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。

北海道 (6 遺跡)	入江貝塚・大船遺跡・垣ノ島遺跡・キウス周堤墓群・北黄金貝塚・高砂貝塚
青森 (8 遺跡)	大平山元遺跡・大森勝山遺跡・亀ヶ岡石器時代遺跡・小牧野遺跡・是川石器時代遺跡・山内丸山遺跡(復元された掘立柱建物)・田子屋野貝塚・二ツ森貝塚
岩手 (1 遺跡)	御所野遺跡
秋田 (2 遺跡)	伊勢堂岱遺跡・大湯環状列石



高砂貝塚 土偶
 出展：JOMON ARCHIVES
 (洞爺湖町教育委員会撮影)

関東支部

神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1-4-822
 ☎045-546-2647



支部長
小林 啓一
 (土木 20 回卒)

関東支部の組織は、関東支部の下に東京都校友会・千葉県校友会・神奈川県校友会・栃木県校友会・群馬県校友会・埼玉県校友会・茨城県校友会・山梨県校友会・長野県校友会で構成されております。

- 東京都校友会** 会長 **山本 健史** (建築 37)
 事務局長 **松崎 信一** (建築 29)
- 千葉県校友会** 会長 **藍郷黎治郎** (土木 14)
 事務局長 **松尾 清志** (土木 29)
- 神奈川県校友会** 会長 **本田 貢** (土木 21)
 事務局長 **早川 辰也** (土木 29)
- 栃木県校友会** 会長 **星野 光利** (土木 33)
 事務局長 **篠崎 淳** (土木 36)
- 群馬県校友会** 連絡責任者 **福井 清** (土木 14)
- 埼玉県校友会** 会長 **永田正一郎** (土木 21)
 事務局長 **城座 隆夫** (機械 21)
- 茨城県校友会** 連絡責任者 **宍戸 薫** (土木 13)
- 山梨県校友会** 連絡責任者 **正木 徳栄** (土木 47)
- 長野県校友会** 会長 **田中 敏雄** (土木 18)
 事務局長 **酒井 洋** (土木 31)

関東支部

支部長
小林 啓一
 (土木 20)
 事務局長
津島 幸久
 (機械 38)

● コロナ禍でやったこと

今年度は、コロナ禍のため主だった行事は中止し、電話等による校友との連絡のみにしております。

● コロナ収束後(次年度)への抱負

関東支部の年間行事と時期は、毎年6月に関東支部総会を開催、都県校友会は定期的に役員会、総会を開催しております。また、4月の工学部校友会総会、11月の日本大学校友会全国大会等に出席しております。新型コロナウイルスが終息いたしましたら校友の絆を深めるために、各行事を再開してまいりますので、校友の皆様への参加をお願いいたします。

● 地域でのトピック

関東支部は、工学部校友会の内で最大の組織であります。校友の中には多種多様な業界で活躍している校友も多いので、若い世代の校友に参加していただき、先輩校友との絆を築いて欲しいと思います。郡山で学んだ校友は、先輩・後輩を問わず全員が仲間です。何かお役に立つことがあればいつでも連絡ください。支部校友会は、校友皆様のボランティアにより運営、活動を行っています。活性化させるために校友皆様の校友会への参加を歓迎しております。



北陸支部

新潟県新潟市秋葉区横川浜518-12
☎0250-38-4994



支部長
山本 久
(土木 31 回卒)

● コロナ禍でやれたこと

昨年度に引き続き、北陸支部総会・懇親会は中止。

- 7/18 役員会（暑気払い）にて、ゴルフコンペの中止の申し合わせ及び会費徴収見送りを決定。
- 11/26 役員会（忘年会）にて、2020年度の決算確認及び2021年度の決算見通しについて協議。
- 11/30 新潟桜門会（イタリヤ軒）への参加（岩名涼非常勤顧問、田辺篤幹事）



● コロナ収束後（次年度）への抱負

3年越しの総会・懇親会の再開を期待。
その他、ゴルフコンペ、旧父母会との意見交換会、年2回の役員会の開催。

東海支部

愛知県名古屋市中区栄4-6-25
川北電気工業㈱内 ☎052-251-7111



支部長
近藤 直幸
(土木 28 回卒)

● 担当エリア

愛知県
岐阜県
三重県



● コロナ禍でやれたこと

行事は、何も実施しておりません。会員の一部からは、何も出来ないのさみしいなあと漏れ聞こえてきています。

● コロナ収束後（次年度）への抱負

まず、支部総会の開催をと考えております。今年こそはと思っている矢先にオミクロンとかで今年も無理かと思えます。

● 地域でのトピック

母校の不祥事問題が心配です。

東東海支部

静岡県焼津市本中根485-5
☎080-1626-6412



支部長
酒井 浩行
(土木 36 回卒)

● 支会構成

東部支会
中部支会
西部支会



● コロナ禍でやれたこと

インターンシップ・企業説明会
高校生対象進学説明会『工学部 IN 静岡』

● コロナ収束後（次年度）への抱負

- 総会（東部・中部・西部支会の持ち回りで開催）
- インターンシップ、企業説明会
8月に県内企業、県庁、市役所、町役場校友の参加を得て、学生に対して実施
- 常任幹事会
年間3～4回開催。幹事（25名）の出席を得て、情報交換、行事立案を実施しています。

四国支部

香川県さぬき市志度1178-4
☎087-894-1040



支部長
六車 秀世
(土木 16 回卒)

● 役員

支部長 **六車 秀世** (土木16)
※香川支会 支部長兼任
愛媛支会 **永井 次郎** (建築14)
徳島支会 **藤原 賢治** (建築36)
高知支会 **東條 傑** (機械25)

● コロナ禍でやれたこと

香川支会での一木会（月の第一木曜日・時・場所＝決）はコロナ禍の中で行政の指示に従い、また校友間の意見を加味して3回開催しました。
ネットワークにおける“核（連絡網）の充実”が大切…と思いました。

● コロナ収束後（次年度）への抱負

四国支部総会 8月下旬頃
・香川支会 4月初旬頃
・愛媛支会 10月下旬頃
・徳島支会 11月初旬頃
・高知支会 未定



● 地域でのトピック

早谷川悟さん（建31）（高松市栗林地区在住）は、子供達の“活動支援”と“地区のまちづくり”を目的として平成12年から小学生の保護者・PTAOB・地区有志および教職員等（現在18名）と“栗林おやじ塾”を結成し、小学校のクラブ活動協力・自然体験・地域の一員として祭り参加等の支援を行っています。

九州支部

福岡県福岡市博多区板付4-6-33
（株）北洋建設内 ☎092-589-0151



支部長

上田 勝
(土木 28 回卒)

●担当エリア
九州・沖縄

●役員

支部長 上田 勝 (土木28)
副支部長 上村公仁隆 (建築28)
事務局長 脇山 亨治 (建築29)
会計 後藤 久幸 (機械32)

●コロナ禍でやれたこと

コロナ禍で、本当に何もできない1年でした。今年こそはと思っていた総会も開催できなかったし、毎月のアカシヤ会を行っている「でんじん」もコロナ禍で閉店。しかし、新型コロナウイルスが少し収まってきたところからのボージョレニューボーの日と忘年会を開催できたのはよかったです。個人的には郡山での総会の後、懇親会はなかったのですが先輩方々にお誘いを受け、とても楽しい夜を過ごさせていただいたのが今年一番の思い出です。



●コロナ収束後(次年度)への抱負

次年度は、昨年、今年と開催できなかった支部総会を盛大に開催したいと思っています。秋の予定なので「今年こそは収束しようやろうもん」という博多の思い込み希望ということで。そのほかにも新型コロナウイルス感染状況を確認しながらアカシヤ会を行いアルコールの摂取を増やしてではなく、会員との親睦を深めていきたいと思っています。

教員部会

静岡県焼津市本中根485-5
☎080-1626-6412



支部長

久保田幸正
(建築 19 回卒)

●支部構成

・北海道支部 ・青森支部
・山形支部 ・福島支部
・静岡支部
・新潟支部 (長野県・群馬県含む)
・茨城支部設立準備中

●役員名簿

支部長 久保田幸正 (建築19)
相談役 関根 敬次 (建築16)
事務局長 永田 進 (建築22)
事務局次長 阿部 英敏 (工化33)
常任幹事
久保田幸正 (建築19) 渡邊 秀雄 (機械20)
横尾 聡 (建築28) 大澤 俊幸 (土木27)
豊島 隆幸 (電気27) 田村 浩啓 (土木29)
伊藤 満 (建築30) 宮崎 拓也 (土木49)
田畑 剛 (建築52) 小林 邦之 (電気52)
大石 祐太 (建築61) 紅林 達哉 (土木62)
千葉 健寛 (建築65) 安彦 宗哲 (機械65)
中山 智博 (土木66) 吉村 恵太 (電電66)
山本 陽介 (電電67)

●コロナ禍でやれたこと

●日大工学部ミニオープンキャンパス In 静岡

(於：静岡県立島田工業高等学校)

生徒：35名 保護者：25名

担当：大石 祐太 (建築 61 回卒)

●校友教員意見交換会

(8月8日(日) 日大工学部オープンキャンパス)

学部主催であるが全国の校友教員に声を掛けて多数ご参加いただきました。

●コロナ収束後(次年度)への抱負

●教育課程特別講義

25年以上前から教職教室主催のもとで校友教員が講演を行なっている。現職教員もまた、先輩からの話ということで強いインパクトがあり、この良き講座は今後共教員部会としても前端的に協力しバックアップしていきたい。

●地域でのトピック

●池原 智宏氏 (建 38 回卒)

道北の伝統校旭川工高から工学部建築学科へ。卒業後は留萌工高に赴任。以後、道内各地の工高に勤務し、母校旭川工高には教頭として里帰り。太田潤一校長(電34回卒、現：札幌工高校長)を助け学校運営に尽力。その実績が認められ、全国的に有名となっている「北海道おといねっぶ美術工芸高校」の校長昇進。同校が位置する音威子府村は人口600余人の小さな村です。毎年全国より40名の新入生が集まり、教職員・生徒の計150名は村の活性化に大きく貢献して、全国の関係者の注目のマトでもある。また、小さな村が全国に名高き高校のカジ取りに意欲を燃やしているため池原校長への期待は大きい。



令和 4 年 1 月 8 日(土) 先輩と考える就職セミナー

当初の予定では、昨年 8 月に実施予定でしたが、「コロナ禍」の影響で、学生が帰郷する冬休みを選び、開催されました。

県庁、市役所の公共機関、民間企業が参加、U ターン希望の学生のために、工学部校友会の全面バックアップのもと、一昨年からは毎年実施されています。

学生、保護者からも好評で、身近な先輩からの話は、進路選択にも大きな影響があるようです。

さらには、学部、校友会が一体となって、学生の就職(進路)に万全の態勢を取ることが、高校側にも伝わり、高校生の受験先として、面倒見の良い日大工学部として受け入れられているようです。当日は、2・3 年生の 40 名、校友 35 名が参加いたしました。



静岡新聞 1 月 9 日朝刊

訃報

名誉顧問 石部欽一郎氏は、令和 2 年 12 月 27 日 85 歳にて永眠されました。氏は、県立静岡高校より、第二工学部工業化学科(現・工学部生命応用化学科)に入学。東東海支部設立に大きな力を発揮されました。学生時代は、新幹線も無い時代であり、静岡からは 6 時間かけて郡山に行った思い出など、アカシアの森に囲まれた木造校舎での勉学に熱い思い出を後輩に語ってくれました。工学部校友会 50 周年記念誌にも執筆されています。

あかしゃ建友会

学生支援として30万円を工学部に寄付

工学部広報 No.264 号に掲載の通り、「あかしゃ建友会」から工学部に学生支援として 30 万円を寄付しました。本誌面を通じてのご報告と会の活動等を紹介させていただきます。

「あかしゃ建友会」(会長：浦 憲親 18 回卒、会計幹事：水上 崇 22 回卒、会員 30 数名)は、1993 年(平成 5 年)故 福地利夫 名誉教授の「卒業・修了後も皆が一堂に会し、建築関係の情報交換の場を設けたらどうですか」というご提案を基に、本学建築材料研究室(5 研究室：幸田太一、福地利夫、小栗治男、橋本寛、渡澤正典)の OB・関係者が集う会として、有志者により設立されました。1994 年(平成 6 年)に第 1 回を開催し、多くは「母校を訪ねる会」の時期に合わせ、「北桜祭」の連携企画として、これまでに 20 回を数えています。

各回毎に会員を中心とした参加者による建築関係(材料、構造、計画、設備)のホットな話題と工学部建築学科教員の研究内容を講演テーマに取り上げ、講演の総数は、73 テーマを数えました。また、参加者は、会員、学生及び一般の方々を含め延べで約 500 名を越えています。開催場所として、荒池にある工学部研修会館(9 回)、解体前の 2 号館(1 回)、情報研究棟(1 回)、竣工なった 70 号館教室棟(5 回)等の大学施設を多く使わせていただきました。また、校友会からは、工学部、北桜祭実行委員会との連絡調整と開催に当たっての便宜を図って頂きました。

「あかしゃ建友会」が、約 30 年の長きに渡り活動・維持出来たのは、偏に、工学部並びに工学部校友会のご支援と会の活動に賛同頂いた関係の皆様のご理解とご協力の賜と感謝致しております。

新型コロナウイルス感染が蔓延し始めた頃、感染拡大等に伴い就学困難となった学生の救済措置として寄付を広く募っているとの情報を校友会から得たことから、その旨を本会会員に諮ったところ大方の賛同を得ることができました。

そこで、工学部並びに校友会の本会に対してのご理解、ご支援に感謝の意を込めて「日本大学工学部北桜奨学金給付規定」に基づく就学困難者に対する就学資金に供することとし、2020 年 8 月 20 日工学部庶務課を通じ 30 万円を工学部に寄付致した次第でございます。

当該学生の皆様に少しでも救済の糧になれば幸いです。

【文責：柳 啓 (建築 19 回卒)】



工学部研修会館にて

ロハス工学のこれまでとこれから ～ロハス工学からロハス学への進化を目指して～



日本大学工学部
工学研究所長兼ロハス工学センター長
土木工学科 教授 岩城 一郎

はじめに

2021年11月6日(土)、日本大学工学部キャンパスにおいて第10回ロハス工学シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは東日本大震災の翌年である2012年に始まり、途中、2019年東日本台風による被災などの影響を受けながらも毎年開催し、今回もコロナ禍で学内限定となったものの開催にこぎつけました。このように、ひたむきに10回のシンポジウムを積み重ねてきたことに対し、誇りを感じています。

本稿では、このような節目の年を迎えたロハス工学について、これまでの活動を振り返り、東日本台風で被災したロハスの家群跡地再生プロジェクトの現状や福島県内外での取り組みを紹介し、これからのロハス工学のビジョンについて著者の考えを示したいと思います。

ロハス工学のこれまで

ロハス工学は2008年に加藤康司教授らが「ロハスの家研究プロジェクト」を立ち上げたことにより本格化しました。2009年にロハスの家1号、2010年にロハスの家2号が構築され、着実にプロジェクトを推進してきましたが、2011年の東日本大震災によりキャンパスも甚大な被害を受けることとなります。そんな中でも、同年にロハスの家3号が構築され、ここにロハスの家プロジェクトが完遂することとなります。以来、「ロハス工学」とは、健康で持続可能な生活スタイルと社会を実現するための工学であり、震災、原発災害と風評被害から、「ふくしま」の自立した復興を実現するために必要となる工学と位置づけ、6学科と総合教育、学生と教職員が一体となり、様々な活動を進めてきました。そして、2019年2月に、これまでの成果をまとめた書籍「ロハス工学」(日経BP社)が発刊されることとなります。このように順調に進化を続けてき

たロハス工学ですが、2019年10月に発生した東日本台風によりキャンパスが被災し、ロハスの家も浸水することとなります。本来最も安全・安心であるべきキャンパスが被災したことを重く受け止め、「キャンパス強靱化プロジェクト」を立ち上げ、被災状況を把握し、なぜそのような被災が生じたかを解明するとともに、同様の被災が生じないための対策を提案しました。その詳細は昨年の校友会報第84号「令和元年東日本台風による被災とコロナ禍を乗り越えて」に譲りますが、要約すると、阿武隈川無堤地区からの外水氾濫(約220万㎡)と徳定川の内水氾濫(約55万㎡)によりキャンパス内が最大約2m浸水し、その周辺地域を含め甚大な被害を受けました。これを受けて、本プロジェクトではキャンパス内の70号館教室棟を垂直避難型避難所に指定するとともに、阿武隈川の無堤地区の築堤と徳定川の改修が急務であることを提案しました。2022年1月現在、これらの対策は概ね完了しており、キャンパスの安全・安心が保たれた状態となっています。

2020年11月にはロハス工学センターが立ち上がり、著者が初代センター長に任命されました。本センターの役割は、学部におけるロハス工学に関する研究・教育・地域貢献・国際貢献の中枢を担うもので、ロハス工学に関わる全てのプロジェクトがこのセンターを軸に展開されます。本センターにおいて、ロハス工学に関する研究プロジェクトを公募したところ、従来のプロジェクト6件に対し、2022年1月現在、新たに10件が採択され、合計16件にも上るプロジェクトが精力的に進められています。その中に、「ロハスの家群跡地再生プロジェクト」も位置付けられています。本プロジェクトの目的は、東日本台風により被災したロハスの家群跡地を学生・教職員・地域住民にロハス(健康と持続可能な生活スタイル)を体感してもらう研究施設として再生させることであり、短期(1年)・中期(3年)・長期(10年)・超長期(20年)にわたり、キャンパス計画を進めるための拠点とすることにあります。本プロジェクトは本学部の研究者13名、職員4名、学生8名、設計者3名で構成され、これまでに5回のワークショップを開催し、施設のグランドデザインについて話し合ってきました。そして、今年で10回目を迎えるロハス工学シンポジウムにおいて、教職員や学生の代表からこれまでの成果について報告を行い、その後のパネルディスカッションで、このエリアをロハス工学の発信源とし、さらにここに集う利用者の憩いの場として活性化させるための方策について議論を行



図1 ロハスの家プロジェクト



写真1 ロハスの家群跡地の現況

いました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面とウェビナー（Web セミナー）によるハイブリッド方式で開催されました。シンポジウム後には教職員と学生に対しアンケートを実施し、広くプロジェクトの内容について意見を聴取しました。今後、その意見を踏まえた改善案を作成し、再度学内からパブリックコメントを求め、学内のみんなで考えた案となるよう配慮したいと考えています。

福島県内外のプロジェクト

ロハス工学による研究プロジェクトは、こうした工学部キャンパス内での活動にとどまらず、福島県内外へと実装されつつあります。その一つは本学部の客員教授を務める菊池信太郎先生（医師）との連携です。すなわち、「Smart Wellness Town PEP MOTOMACHI」に建築学科浦部智義教授をはじめとする多くの研究者が関わることとなりました。ここでは、菊池医院と新施設を拠点として地域の人々の健康や子育て支援を実践する場を造り、中心市街地（郡山市本町地域）の活性化の一助になることを目指しています。このように、ロハス工学は工学の域にとどまらず、医療との連携や、地域づくりを担う学問体系へと発展しつつあります。

また、2021 年度から福島イノベーションコースト構想機構の「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業（第2期）」において、「産学官民の連携による「ロハスコミュニティ」の構築と実装」（研究代表者：浦部智義）が採択されています。ここでは、2020 年度までの第1 期事業で対象となった葛尾村に加え、富岡町とも包括連携協定を締結し（2021 年 10 月）、実装の場としています。具体的には、国が提唱する「ライフイノベーション」と「グリーンイノベーション」を包含する「ロハスイノベーション」を目指し、それを実装する中で人材を育成し活動するフィールドの場、すなわち産学官民の連携による「ロハスコミュニティ」の構築を行い、5 年間を通して浜通り地域等でイノベーションを生み出す高度な人材の長期的な教育・育成の基盤とすることを目的としています。

さらに、遠く離れた山口県宇部市にある「楠グリーン村」ともロハス工学の実装を目的とした共同研究契約を 2021 年 6 月に結びました。楠グリーン村は、自立共生の地域づくりを目指しているコミュニティで、東南アジア各国に強力なチャンネルを有しています。これまでロハス工学の実装先は福島県内が主でしたが、西日本にも拠点ができたことで、これからは全国さらには東南アジアを視野にロハス工学を展開していきたいと考えています。2021 年 11 月にはその手始めとして、著者の研究室の学生と楠グリーン村の住民、さらにはこの取り組みに賛同する企業の職員な

ど、総勢 40 名が集まり、自らの手で村内の砂利道をコンクリート舗装に変える取り組みが行われました。この取り組みは行政主導だったインフラ整備を住民主導で実施し、自立した地域づくりを目指すものです。習得したノウハウは過疎化の進む地方やインフラが整っていない東南アジアの国々などに活用してもらおう計画となっています。今後、ロハスの花壇、ロハスのトイレ、ロハスのコミュニティ施設を楠グリーン村に構築し、各種メディアで紹介いただくとともに、ネットを駆使してロハス工学に基づく技術を、東南アジア各国にも展開していきたいと思っています。

ロハス工学のこれから

今、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、期せずして世界中の人々が健康や病気、生と死を深く考えることとなりました。また、ロックダウン、緊急事態宣言の発令により、人々はマスクの着用を迫られ、人と人の接触機会を減らすといった生活スタイルの見直しを余儀なくされています。他方、国際社会では「SDGs」のスローガンの下、「カーボンニュートラル」をキーワードに掲げ、2050 年脱炭素社会の実現に向けた欧米諸国や中国の覇権争い、企業間の競争が激化しています。こんな時だからこそ、健康の意味を深く考え、それを持続させるための生活や社会のあり方を一人ひとりが考える時に来ているように思います。

ロハスは決してその概念を押し付けるものではありません。そこに「…しなければならない」ということは存在しません。大切なことは激動する世界の中で自らを見失うことなく、一人ひとりの価値観の中で、心地よく、無理なく、自分にできること、家族でできること、コミュニティでできることを実践すれば良いのです。そして、ロハスを実直に進めることで、結果として、SDGs、カーボンニュートラルの実現に寄与することとなります。

「ロハス工学」はこれまで、変わらないこと（不変性）、続けること（持続性）を意識し進めてきました。しかしながら、これからは進化し続けること（発展性）を目指す時期にきています。つまり、ロハス工学と医療、福祉、農林水産業などとの連携が求められます。それこそが、「ロハス工学」から人文科学、社会科学、自然科学を包含した新たな学際、すなわち「ロハス学」へと進化することを意味しています。日本大学は本来 16 学部からなる我が国屈指の総合大学であり、そのスケールメリットを生かすことでこれまで以上に魅力ある大学へと変貌できる可能性を秘めています。今後、オール日大の総力を結集し、健全で持続可能な社会を実現するための体制を構築していきたいと考えています。校友の皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。



図2 プロジェクトの構想図



写真2 楠グリーン村での道づくり

～工学部校友会 校友企業の皆さんへ～

在学生のために校友企業の求人情報をご提供ください

日本大学工学部校友会会長 中野 伍朗

日頃より工学部の校友企業（オーナーが工学部校友の企業）の皆様には工学部の学部生と大学院生（共に日本大学校友会の準会員）の就職をご支援頂き御礼申し上げます。ご承知のように工学部の学生は全国から入学していますが、修学後は出身地へのUターン就職希望者が少子化の影響で増加しています。工学部では毎年約1,000名の卒業・修了生が巣立ちます。一方、求人は首都圏とその近郊が多く、地方の求人は少ないのが現状です。そこで、地方にUターン就職希望の学生は公務員として戻るか大都市圏に不本意就職する事になります。

このため、昨年に続き工学部から工学部校友会に「校友企業の求人情報を学生のために活用させて頂きたい」との依頼がありました。本校友会では工学部就職指導課と連携し、平成29年度から工学部ホームページの求人情報サイト（CSnavi）に「校友企業の求人情報」を掲載しました。

このようにUターン就職を目指す学生には地方の校友企業の求人は必要不可欠です。全国の工学部校友企業のオーナーの皆様、後輩の就職支援や御社のPRとして求人情報をご提供くださいますようお願い申し上げます。

つきましては、御社の求人情報（求人申込書及び卒業生在籍者名簿）を工学部校友会までメール（校友会ホームページから）または郵送等でお送りください。なお、卒業生名簿等は個人情報保護に十分留意いたします。

末筆ながら、御社の益々のご発展を祈念いたします。

校友会より

工学部教員定年退職者

【退職年月日：令和4年3月31日】

建築学科	渡部 和生
電気電子工学科	渡邊 博之
生命応用化学科	佐藤 健二
	田中 裕之
総合教育	植竹 大輔
	齊藤 伸
	小林 鉄雄

校友会賞受賞者

以下の1名に令和2年度校友会賞の授与を行いました。（敬称略）

益山 兆（建築） 應援團第64代團長

住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報お願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

新役員名簿（任期：令和3年4月17日～令和5年度通常総会開催日）

役職	氏名	卒科・回	役職	氏名	卒科・回	役職	氏名	卒科・回	役職	氏名	卒科・回
会長	中野 伍朗	化16	常任幹事	久野 清	建21	常任幹事	千代 貞雄	化30	幹事	盛武 建二	土17
副会長	城座 隆夫	機21		秋葉 敬治	土22		柳沼由美子	化30		遠藤 正泰	土28
	菅家 和洋	土24		古河 幸雄	土23		阿部 充宏	土31		吉田 靖博	土30
	高橋 健二	土24		縫 裕訓	機23		松本 力	土36		馬場 浩身	電35
	杉崎 一馬	土26		五島 邦夫	機23		山本 健史	建37		佐久間 啓	機40
	高橋 晃一	土26		相原 茂	土24	村田 吉晴	土12	野内 英治		建41	
	田村 賢一	機30		田口 正英	建26	渡澤 正典	建14	児玉 大輔		化41	
幹事長	土方 吉雄	建23		佐藤 祐一	土26	手塚 公敏	土16	真壁 知史		情1	
副幹事長	永田 直史	機29		西家 千尋	建28	蔭山 寿一	建28	大山 勝徳		情5	
常任幹事	田中 敏夫	建19		松崎 信一	建29	小松 和幸	建25	齋藤 義高		土50	
	柳 啓	建19		小野信太郎	土29	小田 真司	土34	木村 圭二		建3	
	土岐 悦雄	建20		渡邊 英彦	土30	宗形 彰久	土36	佐藤 光正	機9		
							会計監査		顧問		

ポストコロナ社会のリモート技術



日本大学工学部 情報工学科 准教授
大山 勝徳 (情報5 回卒)

新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し、多くの企業と団体の努力によりテレワークを実践してきた結果、テレワークそのものが一部の企業・団体による特別な働き方を超え、全世界的に日常的で当たり前の働き方に変化しました。その一方で、単に会議システムを使用するだけではコミュニケーションを取ることに障害が生じ、生産性が低下することも広く認識されており、コミュニケーション障害の要因に対する理解と対処は大きな課題です。

国内の動きとして、2021年の8月に総務省の『ポストコロナ』時代におけるテレワークの在り方検討タスクフォースは、日本の働き方等をベースとしたやり方によるテレワークの定着に向けた議論をまとめた提言案を公表しました。総務省が公開した関連資料によれば、提言案を公表した時点でテレワークが制度化されている企業の割合は、大企業で53.8%、中小企業で23.7%です。これらの大きく拡大する需要の中で、「バーチャルオフィス」や「クラウドオフィス」などのICT（情報通信技術）ツールが登場しています。

デスクトップ上で仮想的な職場の再現・複製をするバーチャルオフィスは、情報共有・コーディネーションの難しさだけでなく、上司による部下の監視、コントロールや評価の難しさまで解消しうること示すようになりました。現時点で有名なビデオ会議システムと連動するような形で、今後いくつかのバーチャルオフィスが私達の普段の職場環境でも普及し、当たり前となる段階にさえなろうとしています。

ただし、テレワーク実施の根本的な課題として、「みんなが同じものを見ていること」に対する認知が失われることにあります。自分以外の人がある情報にふれているか、そして、「どこまで知っているか」が不明である限り、不安や孤独感があります。出社時であれば、知らず知らずのうちに、その場で会話を一緒に聞く機会や出来事を一緒に目撃する機会が得られるのに対し、テレワーク時には自然と入ってくる視覚的・聴覚的情報が限られます。

本研究室（情報サービスシステム研究室）で従来から取り組んでいた課題の1つとして、フォロー・アウェアネスがあります。これはコミュニケーション・ツールを介して対話や共同作業をしている最中に、脳活動計（脳

波計や脳血流計など）を用いて相手の精神負荷の変化が同調していること（図参照）を可視化するものです。生体信号ですので、従来は体動ノイズが主に付き纏うものでした。機械学習を中心とするAI（人工知能）技術の目覚ましい進歩により 実用レベルに近いフィルタリング結果を提示するようになり、あとは如何にセンサ部を意識せず当たり前身に付けられるようなインタフェースを用意するかにかかってきます。

バーチャルオフィスとして現在多く見られるようになったものの1つが2次元のアバター（分身）を移動させてプライベートルームを行き来することです。例えばアメリカのZoom社がoVice社と業務提携契約を締結したところであり、Zoomビデオ会議はバーチャル空間サービスと直接的に繋がる仕組みも提供されようとしています。この辺のICTツールはこれからも目まぐるしく進化していくと考えられます。

未曾有の災害に人類が直面したことにより、私達のコミュニケーション・ツールに対する価値観やリテラシー（読解記述力）も従来考えられなかったほどに成長しつつあります。失われた文化もありますが、このような中で、新しい企業や団体のワークスタイルを創造して提案する楽しみが新たに生まれていることも事実です。このような時こそ、今後の情報社会にワクワクしたものの勝ちとも言えるのかもしれない。



脳波計を用いた共同作業（上）とフォローの可視化（下）

校友レポート



被災地の市長として

宮城県石巻市 市長

齋藤 正美 (建築 25 回卒)

月日が経つのは早いもので、私が母校「日本大学工学部」を卒業して、早 45 年もの歳月が流れようとしています。体育会剣道部に所属し、仲間たちと厳しい稽古に汗を流した日々が、つい昨日のこのように思い出されます。

卒業後は、一級建築士として様々な建築物の設計に携わり、その後、29 歳で初当選した石巻市議会議員を皮切りに、宮城県議会議員を 7 期務め、この間、惜敗しましたが衆議院議員選挙にも通算 3 度挑戦しました。令和 3 年 3 月、務めていた宮城県議会副議長を辞職、同年 4 月に執行された石巻市長選挙に立候補し、多くの市民の皆様の御信任を賜り、合併後の第 5 代石巻市長として、市政を担わせていただくこととなりました。

石巻市は、宮城県の北東部に位置し、人口 13 万 8 千人余りを有する県下第 2 の都市です。伊達藩の統治下には、水運交通の拠点に位置する「奥州最大の米の集積港」として全国に知られ、明治時代からは、世界三大漁場の一つに数えられる金華山沖を背景に漁業のまちとして栄え、また、昭和 39 年に新産業都市の指定を受けてからは、石巻港が開港するなど、工業都市としても発展を遂げてきました。

三陸復興国立公園を形成する半島沿岸地域には、リアス式海岸特有の地形が織り成す雄大で豊かな自然景観が広がっています。

しかし、私が愛する「ふるさと石巻」の美しい風景が一変することとなります。平成 23 年 3 月 11 日、宮城県沖を震源とする国内観測史上最大となるマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生、その後襲来した大津波により、多くのかけがえのない命と財産が失われました。

本市では、この震災を教訓とした災害に強いまちづくりを推進しながら、市民の夢や希望を実現する「新しい石巻市」の創造を目指し、復興に向けた道標となる「石巻市震災復興基本計画」を平成 23 年 12 月に策定、「住まいの再建」を最優先課題に各種復旧・復興事業に取り組んできたところであり、私自身も県議会議員として、ふるさとの早期復興のために尽力してきました。防災集団移転による宅地供給は、平成 29 年 12 月までに全ての地区で完了、同年度末に復興公営住宅が全て完成したことにより、被災された市民の住まいが再建されました。

また、震災から 10 年を迎えた昨年 3 月には、震災の記憶と教訓を後世に伝える場となる「石巻南浜津波復興祈念公園」が開園、また 4 月には、震災で全壊した石巻文化センターと市民会館に代わる施設として、「マルホンまきあーとテラス」が開館するなど、全国そして世界中の皆様からの温かい御支援と励ましを糧に、復興完結に向けた歩みを

着実に進めています。

本市では、全国的な傾向である少子高齢化に加え、震災の影響も重なったことで、人口減少に歯止めがかからない状況が続いており、その対策が喫緊の課題となっています。

このため、市長就任後は、本市が誇る魅力を様々な形で発信し、交流人口の拡大に繋げる取組や、若い世代の定住・移住を促進するため、子育て支援策や雇用対策等に力を注いでいます。

昨年 10 月には、水産資源の保護・管理と海や河川などの環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、漁業の振興と発展を図ることを目的とした「全国豊かな海づくり大会」が、本市を主会場に宮城県内で初めて開催されました。当日の式典には、天皇、皇后両陛下にもオンラインで御臨席を賜るなど、「水産都市」石巻を全国に広く発信することができました。

また、東日本大震災の津波で全壊し、本市復興のシンボルとして平成 27 年 9 月に開設した「石巻魚市場」が、本大会の海上歓迎・放流行事の舞台となったほか、「世界一長い魚市場」として「ギネス世界記録®町おこしニッポン」に認定されたことは、我々石巻市民の大きな誇りです。

今年の夏から秋にかけて、本市が誇る豊かな自然とアート・食・音楽が融合した総合芸術祭「リボンアートフェスティバル」が開催される予定ですので、ぜひ、全国の O B、O G の皆様にも、足をお運びいただければと思います。

「忘己利他」、私が座右の銘とする言葉です。己を忘れ他を利するは慈悲の極みなり、私心を捨てて、市民・万民のために尽くすことです。

私に課せられた市長としての使命は、被災された方々のお気持ちにしっかりと寄り添いながら、一日も早い復興の完結を成し遂げ、「活力に満ち、誰もが住むことに誇りを持てるまち」を築き上げることです。

母校日本大学の更なる発展と卒業生としての誇りを胸に抱きながら、石巻市の輝かしい未来の実現に向け、全力を尽くしてまいります。



ギネス登録



「ながす」「ためる」 治水対策工事の現場から

株式会社大越工業所 取締役

吉田 靖博 (土木 30 回卒)
(旧姓安司)

2019年の台風19号により、学生時代に通り慣れ親しんだ吹奏楽部部室も浸水し、多くの楽器が被害を受けたことは心が痛みます。私は卒業後、地元郡山で土木関係の仕事を生業としてきました。現在は水道事業がメインの株式会社大越工業所に勤務し、公共事業の土木工事を主に担当しています。降雨のステージが変わったと言われるなかで、携わっている郡山市の治水事業工事を以下あげてみます。**写真1**は学部内を流れる徳定川を迂回のための函渠(幅10m)です。施工は2017年度で現在下流では阿武隈川の水門へと繋がっていますが、上流は未接続です。徳定川流域の内水氾濫の抑制、当学部のためにも完成が急がれます。10年に1度の計画降雨50mm/時に対応する対策としての雨水幹線は、側溝では呑みきれない雨水を地下の大断面水路で受け入れ、近郊河川などへ放流するもので、従来の排水構造、雨水を流す能力が増強されたものです。弊社も10年以上前から携わっています。**写真2**は市内水門町での函渠設置状況です(□2.7m×2.0m)。このルートは現在も上流側が施工中で阿武隈川支流の谷田川に排水されます。ここは「8.5水害」でも19号台風でも谷田川が決壊し、浸水した地域でもあります。昨今の50mm/時を越える雨量に対し、局部的に漏れ出す雨水を一時的にためるために雨水貯留施設が築造されています。治水ではありませんが、水道事業の災害対策として水をためる耐震性貯水槽が郡山市には現在15基あります。**写真3**(郡山市ホームページより)は、郡山駅から西0.8km、芳山公園で最後の帽を被せている15基目の組立写真です。耐震

性貯水槽は水道管の一部を膨らませたツチノコのような構造です。地震などによる水道管の破断、減圧時に遮断弁が閉じ、内部に50～100立方分の飲料水が確保されます。東日本大震災の際に利用された方も多いと思います。耐震性貯水槽は常に満水状態にありますが、雨水貯留施設は平時空っぽです。集中豪雨が発生して呑み込めない、流しきれない雨水を越流堤や可動堰から受け入れて地域の浸水被害を低減させます。埼玉県春日部市にある首都圏外郭放水路「彩龍の川」は有名ですが、雨水貯留管もほぼ構造は同じです。「彩龍の川」は内径10m、当社を含む3社JVにて現在施工中の小原田貯留管は少しこぶりの内径4mです。**写真4**は2021年9月に1,400mの掘削を終えて到達立坑に顔を出したシールド機のカッターヘッドです。なかなか見ることがないと思います。計画される貯留量は他4カ所を含む5箇所貯留施設で3.8万立方分になります。内水に対する主だった「ながす」「ためる」浸水対策です。台風19号よる徳定地区の洪水では、徳定川の内水氾濫に加えて阿武隈川から溢水して外水氾濫が起きました。市内ではそのほか阿武隈川の越水箇所が5箇所あり、現在河道掘削や堤防整備強化が行われています。阿武隈川は那須岳から郡山まで約100km、郡山からでも残り140kmを阿武隈低地の水を全て取り込みながら狭窄箇所を幾つも経て仙台湾まで北流しなければなりません。流域全体が安全に利用できる範囲に阿武隈川の水位を抑えつつ、内水排除機能の強化が計られます。治水事業の現場に携わる方々はこれからますます「過去経験したことのない」ような事象に遭われるのではないのでしょうか。仮締切りの越流、浸水や函渠内への逆流などは多くの御同輩が経験されていると思います。優先すべきは災害を予測し形骸化せず対処すること、事故は偶発でも起こしてはいけません。私もそろそろ引退ですが「無事故」は誇りです。



写真1

学部内を流れる徳定川を迂回するための地下水路



写真2

市内水門町での雨水幹線函渠設置状況



写真3

災害時に飲料水を確保する耐震性貯水槽



写真4

小原田貯留管シールド機のカッターヘッド

校友レポート「二人の福島県聖火ランナー」



札幌

大和建設工業株式会社
菅家 和洋 (土木 24 回卒)

コロナ禍の中、校友会の皆様には、いかがお過ごしですか。この状況が、一日でも早く終息へ向かえますことと、皆様のご健康をお祈り申し上げます

札幌オリンピック冬季大会の聖火ランナー経験の文を書いて下さいとのこと、事務局より依頼されましたので、私の記憶を紐解いてみました。

1972年1月6日だと記憶していますが、当時日大工学部の体育会スキー部に所属して、山形県天元台スキー場で、合宿をしていた記憶です。

スキー部の先輩に、聖火リレーをするように指示され、ロープウェイを下りました。郡山には前日に来て、合宿で緊張した体が次第にほぐれていったようです。

当日、バスで、リレーを行う郡山市安積町に行きセレモニーの後、聖火リレーを行いました、距離にして500m位ですがとても長く感じられたのは、私だけでしょうか。聖火リレーの記念としてヤッケ、帽子それに、メダルをいただきました。メダルは、数年前まで、記念に取ってあったんですが、見当たりませんでした。

昨年の東京オリンピックでは、トーチを購入できるという事だったんですが、当時としては無かったように思えます。

当時の記憶では、大会のテーマ曲となったのは、トワ・エ・モアほか歌った「虹と雪のバラード」でした。又フィギュアスケートで氷上に尻もちをつきながら、銅メダルをとったアメリカのジャネット・リンが「札幌の恋人」「銀盤の妖精」と呼ばれ日本中で人気ものになりましたね。

当時は振り返り、現在のように、派手な演出はないかもしれませんが、みんなでオリンピックを、成功させるぞといった気迫があったのではないかと思います。

何はともあれ、郡山での青春の一ページです。



◀当時の写真

パンフレット▶▶



東京

合同会社ねっか 代表社員
脇坂 斉弘 (建築 45 回卒)

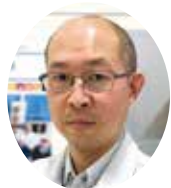
現在、私の会社には聖火リレーのトーチが飾られており、来店された方にもオリンピックの余韻を楽しんでもらっています。

私のところに、聖火ランナー選出の連絡が来たのは2019年12月。福島県58市町村の代表である福島県選出の公募ランナーの58人に選ばれました。うれしいのと同時にどこの代表だ？という疑問。私は、出身地は郡山市、住まいは南会津町。会社があるのは只見町です。

内定の連絡をみると、どうやら只見町の代表らしい。「え？只見の子供達の方がいいのでは？」そんな思いも過りましたが、新聞発表されると、只見の方も南会津の方も喜んでくださいました。もちろん、「住民票はいつ只見に持ってくるんだ？」という声も多かったのですが…。2020年2月新型コロナウイルスが流行し始め、オリンピックの開催を危ぶむ声が上がリ、その後、聖火リレーも中止に。とても残念な気持ちとウィルスの蔓延状況から考えると仕方ない気持ちで、走る予定だった日を過ごしました。

それから一年。万全の体調と行動の管理をして迎えた2021年3月27日。一年越しの聖火リレーは、快晴に恵まれ、南会津町を出発しました。数日前から友人、知人から応援に行くよとか、オンラインのライブ配信で応援してるよ等沢山の連絡を頂きました。コロナ禍ということもあり、応援の制限がありましたが、聖火リレーが通過する道路は、南会津町としては、多数の観客がおり、みな笑顔であふれておりました。聖火リレーで走ったのはたった200m。けれどその200mは、とてもゆっくりとした時間で、一生の宝となる時間となりました。大人も子供も、みんな笑顔で手を振ってくれました。長いコロナ禍で見た久しぶりの温かい空気と笑顔でした。私の会社は「次世代につなぐ」を企業理念に掲げてますが、この聖火リレーを自分の子供達も含め地域の子供達に見せることができたのは、地域にとって非常に大切なことだと思います。これからも地域の為に頑張ろうと改めて思わせてくれた200mでした。因みに、南会津町を一緒に走った12名のランナーとは今でもLINEでつながっています。





当社が取り組む SDGs達成への貢献

株式会社アサカ理研 開発部長

平岡 太郎 (工化48回卒)

この度は、当社とSDGs(持続可能な開発目標)との関わりについて執筆させていただく機会を頂戴し、誠にありがとうございます。2002年に日本大学大学院工学研究科工業化学専攻を修了してから、19年が経ち、私は今、株式会社アサカ理研、技術・開発本部の開発部長を務めております。

大学在籍中は化学工学研究室に所属し、超臨界流体に関する研究に携わらせていただきました。その当時から新しい技術を生み出し、社会に貢献したいとの思いを持っておりました。そこで、選択したのが、「豊かな創造性を発揮し、社会貢献を果たす」という社是を持つ当社でした。

当社は、「リサイクル」という言葉もまだ無かった1969年、環境保全や資源の有効活用を目的として創業し、いわゆる「都市鉱山」からの有価金属回収、再資源化を通じて、循環型社会の形成に貢献してまいりました。「都市鉱山」という言葉は、皆さんにはなじみの薄い言葉かもしれませんが、簡単にご説明させていただきますと、パソコンやスマートフォン等、廃棄された製品に含まれる有用な金属を鉱山に見立てた呼び名です。天然資源の少ない日本では、金属資源のほとんどを輸入に頼っている状況であり、貴金属の価格高騰や産出国における児童労働等の社会問題を受け、自国資源である「都市鉱山」に注目が集まっているというのが現状です。このような環境の中、当社は「都市鉱山」から、有価金属を回収し、再生することで、経済面では、資源循環による安定した生産消費形態の形成、環境面では、資源循環により廃棄物を減らす、あるいは過度な鉱山開発を抑制することで環境負荷を低減、社会面では、児童労働に繋がりがねない不正な資源開発を排除することで、世界中の人々が平和に暮らせる豊かな社会づくりに貢献しております。

最近では、スマートフォンや電気自動車(以下、EV: electric vehicle)等に使用されているリチウムイオン電池(以下、LiB: Lithium-ion Battery)の廃棄品等からレアメタルを回収し、LiBの材料に戻す「LiB to LiB」技術の実用化・事業化を目指し、研究開発に注力しております。レアメタルは、「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、安定供給の確保が政策的に重要」な金属を指し、私たちの生活

に身近な製品にも多く使用されております。この「LiB to LiB」の実現は、前述同様、循環型社会の形成に寄与することはもちろんのこと、脱炭素化の流れの中で普及していくであろうEVが廃棄される十数年先を見据えた上でも非常に意義のあるものであると考えております。

前置きが長くなってしまいましたが、つまり、私が申し上げたいことは、当社が行っている事業そのものが、SDGsの考え方に則するものであり、SDGsの達成に貢献するものであるということです。

そうした当社の取り組みが認められ、2021年3月には、郡山市が主催する「第2回こおりやまSDGsアワード」を受賞することができました。「こおりやまSDGsアワード」は、郡山市が目指す「SDGs体感未来都市」の実現に向け、こおりやま広域圏内(郡山市を含めた16市町村)において特に優れた取り組みを行う住民・団体等を表彰し、SDGsの理解・普及を図ることを目的とした取り組みです。当社に対する講評を抜粋いたしますと、以下の通りとなります。

「金属リサイクル技術の追求によりSDGsのゴール12(「つくる責任、つかう責任」)に直接貢献している。また、紛争鉱物を取り扱わないことによる地域の平和(ゴール16「平和と公正をすべての人に」)に関連する社会的課題の解決、多様な産業との連携を通じた経済的価値の創出が図られている点も高く評価した。実績とともに自己評価を公表していくことで、ビジネスモデルを発展させ多様な価値を発揮する、SDGs・ESGの時代の模範的な企業活動となっていくことが期待される。」

(郡山市持続可能な地域づくり活動推進表彰にかかる懇談会講評より一部要約) ※ ESG: 環境・社会・企業統治

SDGsという言葉は、様々な場所で使われる、聞かれるようにはなってはおりますが、まだまだ一般的な言葉として普及・浸透しているわけではありません。そうした中、「SDGsアワード」という郡山市の取り組みは、より多くの方がSDGsを知る、SDGsについて考えるきっかけに繋がっていくものであると考えております。

SDGsが掲げる17のゴールは、どれも、一つの企業や団体が単独で達成することはできませんが、一つの企業や団体が単独で「はじめる・貢献する」ことはできます。当社は今後とも引き続き、事業を通じて、SDGsの達成に貢献していきたいと考えております。これを読んだくださった方々に、SDGsを知っていただき、自分ができることはなんだろうか?と考えていただく機会となったのであれば、幸いです。

日本大学工学部校友会会員各位

令和4年3月1日
校友会会長 中野 伍朗

令和4年度 通常総会通知

本会会則第11条により、日本大学工学部校友会令和4年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

1. 日 時/令和4年4月23日(土) 13時より
2. 場 所/日本大学工学部 50周年記念館 3階
3. 議 題/(1) 令和3年度会務報告および決算報告
(2) 令和4年度事業計画および予算審議
(3) その他

※但し、変更等が生じた場合はホームページに掲載または事務局にて対応致します。

第39回 母校を訪ねる会

北桜祭との連携企画であるため、開催については現在、大学と調整中です。開催が決まり次第、対象学年の皆様に変更のご案内状を送付及びホームページでの告知を致します（8月頃発送予定）。

※第83号・84号の記事に誤りがありました。深くお詫び申し上げます。
誤) 第40回母校を訪ねる会 ➡ 正) 第39回母校を訪ねる会



写真部

美術部



84号に続き、大学の写真部(星摩由香部長)の皆様より表紙・裏表紙の写真を、美術部(三瓶恵美子部長)の皆様より挿絵を提供していただきました。発行に際しご協力いただきましたすべての皆様に対し、広報委員会より感謝申し上げます。

校友会報 第85号

発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
URL : <https://www.nichidai-ce-koyukai.com>

発行部数 50,000部
発行日 令和4年3月1日
発行責任者 校友会会長 中野 伍朗
編集責任者 広報委員長 千代 貞雄



本館